
涼宮ハルヒを破壊

AK28号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涼宮ハルヒを破壊

【Nコード】

N5621J

【作者名】

AK28号

【あらすじ】

とりあえず読んでみてください

第0話 トークショー

「涼宮ハルヒかぁー……」

と言つて山崎氏は腕を組む。

「内容的には100点やけど…絵がな…わて萌え画苦手やねん」

山崎氏はテーブルの上の珈琲をぐいっと一杯。

「後女キャラが多いちゅーのもな…そこが良い所うちゅー奴もおるけど、わてにしてみればあれは逃げやな…」

ここで山崎氏はオナラをする。

「おつと失礼…出すもんは早よ出す主義なんでな、で何やっただっけ？」

スタッフが山崎氏に説明する。

「あー…そうそう…女キャラの話やったな。女キャラを使う事によつてマンネリ化が生じる。性別一緒やったら大部分同じなてまう。

性別が違う奴いてこそその強みちゅーのもんがあるんや。かと言って

……誰やっけ？名前忘れた……あの目の細い奴……誰やっただかな……」

2

スタッフ「小泉一樹です」

「そうそ！あいつゲイやろ…そこやねん…まともな奴がキヨンだけしか……や待てよ…普通に考えて夏休みを何万回繰り返し返したら気狂うで？じゃ平常だったあいつは異常だったゆー事やな」

スタッフ「山崎さんが体験したらどうなっていましたか？」

「俺やったらハルヒ殺してるな（即答）だつて流石に気狂つて

『世界が終わろうが関係ない…今は今はコイツを殺して………安息を手に入れるんだああ！』とか言つて殺してるな」

スタッフ「ハルヒファンが聞いたら怒りますよ？」

「知らんがな、どうせあいつらのする事ゆーたらネットの書き込みぐらいやる？わしネット見ーひんし」

スタッフ「じゃあ山崎さんはハルヒの世界に行きたくないんですね？」

「出来るんだつたら行きたいな。行ってあのムチャクチャなボンクラにー言いたいな」

『このワガママ娘！！人様の迷惑考えんか！！』つてな」

終了

第1話 みんな狂え!!!

眩しい なんや？朝かいな？

時計は…まだ7：30やないか…

学生やあるまいし、もう一眠りしよ

「キヨンくん!」

「グハツ!」

なんやなんや!?なんか見知らんガキがうちにおる…

て待てよ?もしかして俺はキヨンなんか?作者の都合上今のタイミングで気づいた方がいいような気がする…

そうや…わしはあのボンクラに言う事言う為にわざわざキヨンに転生してやってきたんや…

「キヨンくん朝ですよー」

て事はこのガキはキヨンの妹かいな…

「わーとるがな…今着替えっから、ちょい外出とき」

「?なんかキヨンくん変…」

「何を言うとする…わいはいつも通りのお兄ちゃんやで!…!」

「……じゃ、じゃあ早く支度してねキヨンくん」

「……………」

「……そういう事になつとる」

長門「人格情報と身体情報に大きな相違…体はキヨンそのものだが人格は別人」

「おつ生長門…」

みくる「えーそれじゃあキヨンの体をした誰かつて事ですか？」

「みくるちゃん乳でえーな」

小泉「どうやらそのようですね…ではあなたは一体誰なのですか？」

「わいは山崎しげる24歳、関西弁やけどバリバリの東北出身のチヤラ男や」

小泉「何故キヨンの体に？」

「涼宮ハルヒとかゆー奴にガツンと言う為や

『このワガママ娘!!（中略）』つてな」

小泉「それは危険です…この世界が滅ぶ危険性がありますし」

「大丈夫やて、だってこの世界は漫画世界やから」

小泉「確かに漫画みたいな世界ですが…」

「いや、そーじゃなくて俺らの世界でこの世界は『涼宮ハルヒの憂鬱』つちゅー漫画なの」

小泉「……………」

長門「……………」

みくる「……………えっ」

「主人公は涼宮ハルヒ、ナレーション的な存在は俺キョン
あんたらは主要人物みたいなもんかな」

小泉「……………確かに漫画みたいな世界だと思ってたんだよ
おかしいと思ってたんだよ…
ありえねーって思ってたんだよおおお！…！」

「ちょｗｗｗｗ小泉…」

長門「じゃあアタシもわざわざキャラ作る必要ないじゃん…」

「えっ長門さん？」

長門「もう目覚めちゃったもんね！自我に！！宇宙人？有機生命体
？バカじゃないのアタシ？！
普通に喋ればいいじゃん！…！」

「長門さあああん！…？」

みくる「どうせこれもシナリオどつりなんですよ？……………わかってん
だからアタシだけは……………何やってもシナリオどつりどつりどつり
どつりいいいい！…！」

「ちよつ W W W みんな?」

しばらく皆発狂してしまい

僕は本来ハルヒが座る筈の席のテーブル下で縮こまるしかありませんでした

小泉「大体お前らキャラ作り過ぎなんだよ!!特にその未来少女
!!」

みくる「うっさいわよ!!アタシはキョンくん好かれようと好かれ
ようとわざと猫かぶってんの!!その気持ち解る!?解らないでし
よ!!!」?

長門「やれーやれーもつとやれー!世界が回るぜー」

終了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5621j/>

涼宮ハルヒを破壊

2010年10月10日16時17分発行